

ふに同じ。

〔増補雅言集覽知十一〕ちがふ違

是は俗と同じくたがふ意なり、されど古くは夢の事のみがふ

意にかけてよめり、普通に見及ばず、

〔蜻蛉日記上之下〕さてしばくゆめのさとしありければ、ちがふるわざもがなとて、七月つきの

いとあかきによくの給へり、

見しゆめをちがへわびぬるあきのよにねがたきものとおもひしりぬる、御かへり、

さもこそはちがふるゆめはかたからめあはでほどふるみさへうきかな

〔金葉和歌集九〕おとこのなかりける夜、こと人をつぼねにいれたりけるに、もとの男まうできあ

ひたりければ、きはぎてかたはらのつぼねのかべのくづれより、くづりてにがしやりて、又

の月、そのにがしたる、つぼねのぬしのがり、よべのかべこそうれしかりしかなど、いひにつ

かはしたりければよめる、

読人不知

ねぬるよのかべさはがしくみえしかど、我がふれば事なかりけり

〔新撰六帖四〕夢

光俊

ちらすなよあなと見るよの夢がたりうたてちがふる人もこそあれ

〔拾芥抄上本〕夢誦

悪夢著草木、吉夢成寶王、今案利桑樹下談、所見夢誦之三反、

又説云南無功德須彌嚴王如來、廿一反、已上向東灑水誦之云々、

唐國ノツノ、ミタケニ鳴鹿モチガヒラスレバユルサレニケリ

吉夢誦

福德增長須彌功德神變王如來

夢誦